

爲其性習善則善習惡則惡故聖人率人之性以建教俾學以習之及其成德也剛柔輕重遲疾動靜亦各隨其性殊唯下愚不移故曰民可使由之不可使知之故氣質不可變聖人不可至而虞九德周六德各以其性殊豈不然乎先王之教詩書禮樂辟如和風甘雨長養萬物萬物之品雖殊乎其得養以長者皆然竹得之以成竹木得之以成木草得之以成草穀得之以成穀及其成也以供宮室衣服飲食之用不乏猶人得先王之教以成其材以供六官九官之用已其所謂習善而善亦謂得其養以成材辟諸豐年之穀可食焉習惡而惡亦謂失其養以不成辟諸凶歲之稗不可食焉則何必求變其氣質以至聖人哉是無它宋儒不循聖人之教而妄意求爲聖人又不知先王之教之妙乃取諸其臆造作持敬究理擴天理去人欲種種工夫遂以立其本然氣質之說耳仁齋先生活物死物之說誠千歲之卓識也祇未知先王之教區區守孟子爭辯之言以爲學問之法故其言終未明聖者豈不惜乎

〔石田先生事蹟〕先生

○石田梅巖

常に門人へ自己の性を知るべき由を説き給へども之を信する者纔

に二三人なりしが中にも齋藤全門ふかく信じ日夜如何いかんと工夫をこらしけるに、ある夜ふと太鼓の音を聞て性を知れり爰においてますく信を起し日々に養ひしかば漸々にして徹通せり故に全門信を盡し朋友を助くれども猶志立たざりける木村重光は初より篤く信じけるゆる年月をかさね工夫熟せしにや或冬障子を張りゐて頓に自己の性を知り大によろこびて先生の許に至り自ら得る所を呈す

はつといふてうんといふたら是はさてはれやれこれはこれはさてく先生此時重光が性を知ることを許し給へり是より門弟子端的に性をしることを實に信じ工夫に心を盡し信心髓に徹しぬればおのく寢食をわすれ或は静座しあるひは切に問ひ日あらずして性を知る者おほし

先生門人の性を知れる者に告げて曰く學は爲すところ義か不義かと省みて義にしたがふの